

さいたま市長定例記者会見

令和3年6月23日（水曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長就任記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社、テレビ埼玉さん、どうぞ進行をよろしく
お願いします。

○テレビ埼玉 6月の幹事社のテレビ埼玉です。よろしく申し上げます。
それでは、市長のほうから今日のご説明をお願いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。
本市の新型コロナウイルスワクチン接種ですが、6月19日からは全ての区役所で、さらに21日からは特設接種会場である市営桜木駐車場での接種が始まりました。後ほど今後の接種計画を説明いたしますが、11月末までに希望する全ての市民の皆様が接種できるよう、スピードをさらに加速させてまいりますので、皆様には安心して接種の機会をお待ちいただきたいと思えます。

なお、接種の予約ですが、特設接種会場についてはほかの会場に比べて予約が取りやすい状況になっておりますので、ぜひご利用いただきたいと思えます。

さて、机上に資料を配付しておりますが、令和3年度のタウンミーティングは、「将来を見据え、さいたま市のまちづくりや市役所移転について考えよう」をテーマに実施します。私が直接各区を訪問させていただきまして、「さいたま市の今後のまちづくりや市庁舎整備及び現庁舎地の利活用」に関して、市民の皆様と直接対話させていただきます。私たちの考え方、方針等について、しっかりと市民の皆様にご説明させていただき、ご意見を伺ってまいります。

市長発表：議題1「本市の新型コロナウイルス感染症の状況について～今後の新型コロナウイルスワクチン接種事業～」

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

まず、議題1「本市の新型コロナウイルス感染症の状況～今後のワクチン

ン接種事業」について説明します。

初めに、本市の新型コロナウイルス感染症の状況について説明します。

現在の感染状況ですが、6月21日時点で市内の検査で陽性が判明した方が累計で7,470名、うち調査中を含む感染経路不明者が3,441名、同日現在の陽性率は4.2%となっています。直近1週間の新規陽性者数につきましては96名で、その前の週と比較いたしますと、新規陽性者数は13名の減少となっております。なお、1週間の新規陽性者数が100名を下回るのは約7か月ぶりとなります。

また、ここ4週間における新規陽性者数の推移を見ますと、減少が継続しており、併せて陽性率も下がっております。新規陽性者数の発生は、減少が継続しておりますが、本市におきましては、まん延防止等重点措置が7月11日まで延長されております。

今後も感染状況を注視するとともに、引き続き緊張感を持って、感染の再拡大を可能な限り抑えるために、積極的疫学調査のほか、感染防止対策をしっかりと行ってまいります。

次に、市内居住者の感染傾向についてです。市内在住者の状況ですが、6月19日時点の療養中の方は合計で194名となっており、1週間前の253名から59名減少という状況です。

直近1か月の感染状況を見ますと、感染経路が判明している方の経路の内訳では、依然として家庭内感染が約5割と非常に高く、次いで職場での感染が多い状況です。

年代別では、20歳代の最多を筆頭に、30代から50代の社会経済活動の活発な方の割合が高い状況が続いております。

続きまして、本市のワクチンの接種事業の状況ですが、接種クーポン券の発送スケジュールを発表し、さらに区役所や特設接種会場での接種が始まり新たな局面に入りました。

そこで、これまでの接種状況を整理するとともに、課題に対応しながら本市の接種完了目標を達成させるための対応策について説明します。

これまでのワクチン接種については、高齢者施設入居者への接種から始まり、医療機関での個別接種、区役所等での集団接種、また規模の大きな特設接種会場での接種を進めてまいりました。接種機会の増加に伴い、接

種数も増加しています。

なお、6月29日からは新たな特設接種会場である浦和競馬場第1駐車場が開設するため、さらなる接種数の増加が見込まれております。

ワクチン接種の年齢区分別の進捗状況についてですが、80歳以上の方についての1回目の接種率は約7割となり、接種を希望している数としてはおおむね見込みどおり進んでいます。

すでに接種クーポン券が届いている65歳以上の方の接種については順調に進んでおり、7月末までに当初予定していた高齢者の7割の接種が完了される見込みです。

次に、現状の課題と今後の対応について説明します。まず、コールセンターについてですが、回線の増強だけでなく、区役所等に相談窓口を設置することで、コールセンターの負担軽減を図ってきましたが、つながりにくい状況が続いております。今後の対応としては、コールセンターの回線のさらなる増強等を検討しております。

次に、Web予約システムにつきましては、個別・集団接種用Web予約システムがつながりにくく、予約が取りづらい状況が続いており、ご迷惑をおかけしているところです。今後の対応としては、Web予約システムにつながりやすくなるよう、7月5日からの新たなシステム稼働に向けて準備を進めております。

Web予約システムの強化にあたり、データ移行作業等が発生するため、現在稼働しておりますWeb予約システムを停止することが必要となります。停止期間は7月2日金曜日の21時から7月5日月曜日の9時までです。また、Web予約システム停止期間中はさいたま市ワクチンコールセンターでの受付も含めた個別・集団接種会場での予約が一時停止となります。7月5日月曜日9時以降については、Web予約システム及びコールセンターでの予約受付が再開となる予定です。

なお、特設接種会場である市営桜木駐車場及び浦和競馬場第1駐車場については、別のWeb予約システムを使用しているため、引き続き予約の受付が可能となっております。接種枠についても余裕がありますので、ぜひ特設接種会場での接種をご利用いただきたいと思います。

次に、接種を希望しているが予約ができていない高齢者については、接

種できずに取り残されないような働きかけが不足しております。今後の対応としては、高齢者に絞った働きかけとして、民生委員や自治会、地域の医療機関等に協力を依頼するなどの対応を進めてまいります。

次に、中学生・高校生への対応につきましては、日本小児科学会によると、「できれば個別接種が望ましい」との見解のため、個別接種を前提とした接種計画が必要となります。今後の対応として、子どもへの接種は子育て世代への十分な周知を行い、個別接種を推奨する方向で検討を進めてまいります。

その他の課題としては、居所が不明な方等への周知にあたり、支援団体と連携するなど対応を進めてまいります。

続きまして、ワクチン接種完了の目標ですが、本市のワクチン接種については、11月30日までに接種対象となる世代の人口の70%にあたる市民への2回接種を完了できるよう、ワクチン接種体制の整備を進めてまいります。

接種対象ごとの対応についてですが、表の1、2のように、65歳以上の全ての方については、すでに接種クーポン券を発送済みで、接種も順調に進んでおります。65歳未満の方につきましては、6月末から7月末にかけて、年齢区分に応じて順次接種クーポン券を発送し、予約についても同様に順次開始します。

表の3にある基礎疾患を有する方につきましては、これから説明する方法で年齢区分における予約開始日に先行して接種の予約ができますようになります。基礎疾患を有する方は、かかりつけ医にあらかじめご相談ください。かかりつけ医が接種実施医療機関である場合、接種クーポン券の送付時期や高齢者の接種状況などを考慮し、かかりつけ医の判断で接種予約を受け付けることがあります。

次に、「市で把握している情報での先行予約設定」ですが、市で把握している障害や難病等をお持ちの方につきましては、ご本人による手続によることなく、接種クーポン券到着日から予約手続が可能となります。

表の4ですが、社会インフラ維持に必要な不可欠な職業の労働者につきましては、小学校・中学校の教員、保育士等を対象として、高齢者の接種完了予定の7月末から9月の実施を検討しておりますが、特設接種会場の予

約枠に余裕があるため、昨日から市内在住の本市の保育士についてトライアルとして接種を始めました。

今後も特設接種会場の予約枠の活用のため、市内在住の小中学生の教員、保育士等についても接種を進めてまいります。その他一般の方については、11月末までの完了を目指し、接種を進めてまいります。

ワクチン接種計画についてですが、計画の前提条件として、「市が必要としている量のワクチンが供給されること」、「接種会場における医療従事者が確保されていること」、「接種希望者の予約が分散していること」、「目標値は168.2万回」の4つの条件とした場合の計画です。6月21日までの総接種数は(15.8万回)となっております。

6月14日の週で見ますと、1週間あたりの接種回数は約5.5万回となっており、6月21日の週から順次始まる特設接種会場での接種を加えますと、1週間に約7万回の接種が見込まれ、この接種数を基に試算をしますと、11月28日頃に目標値であります168.2万回を達成することになります。

なお、国や県の大規模接種会場及び職域接種の見込数を含めて考えると、11月7日頃に目標値を達成できると考えております。今後は、11月末までにワクチン接種が完了できるよう、この計画を踏まえながら接種体制を整えてまいります。

さらに、現在検討の段階ではありますが、新たに特設接種会場を加えると、11月28日までに168.2万回の目標値を達成するという事で準備を進めています。

まん延防止等重点措置の適用から2か月が経過しました。この間、営業時間短縮等にご協力いただいている飲食店をはじめとした事業者の皆様や、感染拡大防止に取り組んでいただいている市民の皆様には、心から感謝を申し上げます。

政府は、6月17日に埼玉県等に対して、まん延防止等重点措置を実施すべき期間を7月11日まで延長することを決定しました。本市は、引き続き措置区域に指定されております。

本市での新規感染者数は減少しておりますが、人の流れが増加しており、リバウンドが懸念されております。市民、事業者の皆様には、もうしばらく

くご苦勞をお掛けいたしますが、安全安心な生活を取り戻せるよう、引き続き感染防止にご協力をお願いいたします。

以上でございます。

幹事社質問：特設接種会場におけるワクチン接種が開始したことの所感及び今後の課題について

○テレビ埼玉

ありがとうございました。

幹事社質問が議題に関連したものなので、そのまま質問させていただいて、その後質疑応答とさせていただきます。

大規模な接種会場でのワクチン接種が始まりましたが、数日実施しての所感と、今後の課題があれば教えていただけますか。

○市長

開設して今日で3日目になりますが、まずは大きな問題なく接種が進んでいることに安堵しているところです。当面の間、毎日開設をいたしますので、皆様により安心して接種していただけるよう会場運営を進めてまいります。

今後の課題としては、予約枠に余裕があることだと考えております。来週29日からは浦和競馬場第1駐車場でも特設接種会場として開設します。市民の皆様には、ぜひ特設接種会場でのワクチン接種をご利用いただきたいと思います。

以上です。

議題1・幹事社質問に関する質問

○テレビ埼玉

では、議題と代表質問に関して質問がある方はお願いします。

幹事社として、今の大規模接種会場の件なのですけれども、結構日差しが強くて、受付前に列ができてるのが何度か見受けられたんですが、そういった熱中症対策みたいなものは今後どう考えていけますか。

○市長

これから大変暑い日が続いていきます。特に受付前の方々がたくさん早めに集まるという傾向がありますので、今後早めに最初の受付の場所から移動できるような体制など、工夫しながら対応していきたいと考えております。

○テレビ埼玉

それでは、各社さん、お願いいたします。

○毎日新聞

毎日新聞です。

コロナに関して1点伺います。東京は横ばいで、下げ止まっているとい

う評価が出ていますけれども、市内に関しては新規感染者が100人を下回って、入院や療養者も前の週の8割ぐらいになっていますけれども、現状を市長としてはどう評価されていますでしょうか。

○ 市長 感染の拡大については、減少から横ばいにあるところで、やや下げ止まり感があると思っております。非常に大切な時期に差しかかっていますので、引き続きしっかりとこの感染防止対策を行っていくことで、さらなる減少につなげていきたいと考えております。

○ 毎日新聞 そういふ評価もあるので、県がさいたま市と川口市だけ残したのは仕方がないかなというところでしょうか。

○ 市長 そのとおりだと思いますし、また県で調べている変異株の状況などを見ても、かなり変異株の割合が非常に高くなってきており、感染力の強い変異株がかなり出てきています。そういったことも踏まえて対策措置を取られたものと理解しています。市民の皆様には、まん延防止等重点措置対象区域になり、営業時間の短縮等、負担を引き続きお願いすることになりますが、何としてもここで抑えていきたいので、ぜひご協力をお願いします。

○ 朝日新聞 朝日新聞です。よろしく申し上げます。

まず1点、ワクチンの関係で、先ほど最後に市長がおっしゃった、新たに特設会場の準備をというお話がありました。これは、桜木駐車場と、あと浦和競馬場のほか、3つ目、4つ目を想定されているということでしょうか。

○ 市長 具体的にはまだ申し上げられませんが、もう一か所規模の大きな特設会場を設置する方向で今検討しています。これから年齢層が若い世代に入ってきますので、かかりつけ医を持っていらっしゃる方がかなり多いと想定しております。議会などでも、そういった方々への対応ということで、特設接種会場等の集団接種について、より積極的に力を入れるべきだという意見もありました。今後年代層が変化していく中で、打ちやすい、接種に行きやすい場所で、かつ大規模で接種ができる場所を増強していくことが、今想定している予定の時期を達成する上でも大変重要だと考えておりますので、もう一つ設置する方向で検討を進めております。

○ 朝日新聞 ちなみに規模とか、あと設置場所のエリアというのは、どの辺を想定されているのでしょうか。

- 市長 現在検討中です。

その他：東京2020大会について

- 朝日新聞 コロナに絡んで、昨日市内の聖火リレーが中止ということが県のほうで発表されて、一方で国のほうは、競技会場で観客数を半分、もしくは上限1万人ということで、市内だとさいたまスーパーアリーナと埼玉スタジアムだと。収容人数からすると、大体1万人が上限になるんですが、聖火リレーは中止するんだけど、競技は有観客、ちょっとちぐはぐな感じがあるのですが、その辺について所感をお願いします。

- 市長 今回五者協議の中で合意がなされ、1万人を上限に収容人数の50%という決定がなされました。ただ、その中で関係者の数を含まないとか、少し曖昧な状況があります。施設、競技によっては、この割合が増えてくることも想定されますので、あまり緩め過ぎた状況になりますと、結果として密になるという状況が生まれるのではないかと考えております。そういったことについては実行委員会等々にしっかりと伝えていきたいと思いません。

また、さいたま市においては、バスケットボール会場となるさいたまスーパーアリーナでは、(15日間で)52回の試合が想定されています。そこでその回数の入退場が繰り返される、さらに言うと、(午後)9時から11時ぐらいまでが最終の試合会場となっておりますので、まん延防止等重点措置の期間が終了した後も何らかの制限が行われた場合にどうなるのが非常に気になっているところです。夜間遅くなってくると、比較的密になりやすい状況も生まれやすい部分もあるし、(オリンピック以外)は制限が掛かっているけれども、オリンピックだけ特別というのは、市民の皆さんにご理解いただくのは難しいのではないかと考えております。

- 朝日新聞 関連して、逆に言うと1万人プラス関係者の方が各それぞれの競技場に来てくれると。今飲食店、飲食業、あと宿泊を含めてかなり疲弊している状況です。その1万人の人たちが来るということは、逆に重点措置が解除されればですけども、かなり業界にとって潤うチャンスではないのかなと思うのですが、その辺について市として何か支援を考えていらっしゃいますか。

- 市長 本日発表されました観覧者向けのガイドラインでは、できれば直行直帰

をしてくださいと呼びかける内容になっています。そういうことも考えると、タイミングとしてはもう少し後になるのだろうと。まずオリンピックの段階では、安心安全を最優先にしながら、感染拡大をしっかりと抑えていって、その後ワクチンの接種率も上がってくる中で飲食業の皆さんへの対策をしっかりと打っていくことが必要かと思います。中途半端に始めると、また感染拡大することになりかねないと思っていますので、現状としてはそういう方向で考えております。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。

続きですけれども、ちょうど開幕1か月前ということで、その所感と、大野知事はアリーナのバスケットについて夜9時以降は無観客でという要請を実行委員会にしているということで、さらに今市長がおっしゃいましたけれども、1日に何試合もあって1万人の方が来るという状況の中で、その1万人でよろしいのかという、その観客の制限をもっと地元自治体として要望するとか、そういうお考えはあるでしょうか。

○ 市長 開幕1か月前ということでの所感についてお話しします。これまで数年にわたって、オリンピック開催準備に多くの皆さんと連携して、さいたま市としても取り組んでまいりました。残りあと1か月という状況ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大が続いているという状況ですので、多くの皆さんとしっかりと連携して、安全なオリンピックを実現をしていきたいと思えます。

夜9時以降 (の試合を無観客にするか) については、今後のまん延防止等重点措置が7月11日までということで、それ以降解除されることが見込まれてはおりますが、解除された後も継続して何らかの経過措置が取られるケースが多いと認識しております。そういった状況の中で、オリンピックだけ特別扱いをして、(午後) 9時以降も外出については緩められる、あるいは規制が少しほかと比べて緩められるということについては、市民の理解が得られることは非常に難しいだろうと思えます。ほかの対応と同じような扱いに基本的にはすべきであると。市民の安全と安心を最優先して考えるべきだと思えます。

○ 埼玉新聞 大野さんが夜9時以降は無観客というのは。

○ 市長 十分理解できることだと考えております。

- 埼玉新聞 その夜9時以前の試合がいくつもあって、1万人の方が何度も入れ替わるという状況の中で、上限1万人の試合が何試合もある中で1万人でいいのかという指摘がありますので、その点で地元自治体として何か要望はされますか。
- 市 長 15日間で52試合が予定されています。大体1万人ぐらいの観客が想定されていますので、それプラス関係者の人数等々あろうかと思えます。その中で密の状況が生まれないのかということについて、状況を把握しながら、必要に応じて委員会等にもこちらからも要望なりご意見を申し上げたいと思います。
- 埼玉新聞 それは、観客の上限を含めてということですか。
- 市 長 そうです。対応も他の競技と比較しても、かなり密度が濃い状況で試合が行われますので、52回の入場と退場が15日間の中で行われてくるということは、かなりの人の流れと密が生じる可能性が高いと考えております。その中で今言ったような上限等についても十分考慮された中で検討されるべきだと思いますし、私たちも委員会と綿密に調整しながら、そういった対策をしっかりと取っていきたいと思います。
- 埼玉新聞 改めてなのですけれども、コロナの感染状況の中で政府は五輪を開催しますということなのですけれども、その受け止めをお願いします。
- 市 長 今回五者協議の中でこういった合意がなされたことについては、私たちとしても理解し、受け止めていくつもりでおります。安心・安全な大会を実施するために全力挙げていきたいと思っております。ただ、まだ懸案事項もありますので、委員会、県、あるいは関係機関ともしっかりと連携をしながら、安全な大会を実現するために最大限の努力をしていきたいと思えます。
- 埼玉新聞 なかなか市民の安心を得るのは難しいかと思いますが、その辺はどういうふうに。
- 市 長 安心していただくためには、やはり安全に運営されているという情報発信が不可欠であろうと思えますので、市民の皆さんが不安に思う点などについても、このように解消されているということをしつかりと情報発信しながら、安心感につなげられるようにしていきたいと思えます。
- 埼玉新聞 聖火リレーのコメントを昨日いただいたのですけれども、改めてなので

すけれども、公道が中止になって、代替措置を行うということで、その代替措置でどういうふうに行ってほしいとか、そういう部分はございますでしょうか。

- 市長 昨日、埼玉県から、7月8日木曜日に実施予定であったオリンピックの聖火リレーについて、公道リレーの中止が発表されました。内容は、川口市と本市では公道でのランナー走行を中止して代替措置を検討するという事です。今回の決定については、市民の安全を第一に考え、適切に判断されたものであると受け止めております。

本来予定しておりましたコースは、武蔵一宮氷川神社の拝殿前から氷川参道を抜けてさいたま新都心公園に至るコースでした。聖火ランナーの皆さんや、あるいは公道で聖火リレーを楽しみにされていた方々のことを思うと、本当に心が痛む思いです。特に聖火ランナーの皆さんは、それぞれいろいろな思いを持ってこれまで練習をされたり、この聖火リレーに臨んでこられました。そういった皆さんの気持ちを考えると大変残念でなりません。しかし、公道でのリレーの代替措置を検討するという事ですので、特に聖火ランナーに予定されていた方々が何らかの参加ができるような代替プランを要望したいと思います。開催まで2週間ですけれども、これまで準備をされていた方々も含め、ご理解をいただけるような事業になってほしいと思います。

- 東京新聞 東京新聞です。

今の聖火リレーのお話で、昨日、走るはずだったランナーの方にお伺いしたのですが、代替措置、さいたま新都心公園か何かで行われる予定だということですが、そのランナーの方にとっては、緑の風が吹く氷川参道で走ることが大変意味があったということで、市としても成人式なんかはなくなっただけで今度再会の広場とか用意されるということですが、市としても何かマラソンを復活させるというようなお話もありましたし、そういった中で組み込んだりとか、何らかもしくは一緒に中止になってしまった川口市さんと連携してもいいと思うんですけれども、何か走るようなイベントみたいなのを検討されたりする可能性はありますか。

- 市長 現時点ではそこまでは考えておりませんが、今後、オリンピックレガシーというようなことも含めて、聖火リレーをやる予定だったコースについ

ても何らかの検討ができないか、これから考えていきたいと思えます。

- 東京新聞 先ほど五輪に関してバスケの話、さいたまスーパーアリーナの話はたくさん出たのですけれども、サッカーのほうに関して、ちょっと屋外でまた状況も異なると思うんですが、ここに関して何かお考えのことあれば教えてください。

- 市長 サッカーのほうで、比較的競技時間もバスケットと比べると長めで、試合数も限定されて、あと屋内というよりは屋外的な場所であるので、やはりリスクとしては少ない部分もあると思います。ただ、もう一方で試合を見た後については、大変熱狂的なファンも多い競技でもありますので、委員会とも連携して安全な環境をつくれるように取り組んでいきたいと思っております。ただ、私たちとして当初予定しておりました南魚沼市との(連携による雪を活用した暑さ対策)は実施する予定です。

周辺で行われる予定だったイベントは、特に人が集まって行われるものについてはほとんど中止という状況にしましたが、何らかの形でさいたま市の競技会場でやられたという思い出をしっかりと残していただける、最大限のことはしていきたいと考えています。

議題 1 に関する質問

- 埼玉新聞 ワクチン接種のほうなんですけれども、先ほど高齢者の働きかけというところの工夫と、先ほどの難病、障害を持っている方のどういうふうにするのかということ、小中学校の教員、保育士などの優先接種はどのようにやっていくのかということをちょっと教えてください。

- 市長 先ほど議題の中で概略について説明しましたが、まず1つ目の、接種を希望しているけれども、予約ができていない高齢者の方々については。先ほど接種率を見ていただきましたけれども、80歳以上については予想されていた7割の接種は完了しております。ただ、やはり受付の電話が混み合っていてとか、あるいはWebでの予約ができなくて、受けたかったんだけど、予約ができなくて受けられなかったという方も一定数いらっしゃるのではないかと考えております。

受けたかったけれども、受けられなかった方々をどうやって救っていくのか、打っていただけるようにしていくのかということなので今検討を進めておまして、民生委員の皆さん、あるいは自治会の皆さんのご協力をいた

だきながら、そういった皆さんのご意向を確認しながら、ワクチンを打っていただける環境をつくっていく取組を検討しています。

それから、2点目ですが、小中学生については、日本小児科学会の方針として、学校で集団接種を行うということではなくて、できれば個別接種が望ましいという見解を述べられておられます。今後の対応として子どもへの接種については、子育て世代への十分な周知を行った上で、個別接種を推奨していく方向で準備を進めていきたいと考えております。教育委員会とも連携して周知等に取り組んでいきます。

○ 埼玉新聞 障害を持たれた方と難病の方については。

○ 市長 障害を持っていらっしゃる方、あるいは難病の方、いわゆる基礎疾患をお持ちの方だろうと思いますが、すでにお医者さんにかかっている方が大半であろうと思います。そういった皆さんについては、医師に打って大丈夫かという確認をしていただく必要がありますので、まずはかかりつけ医にご相談いただいて、かかりつけ医によってはワクチン接種も行っている医療機関もありますので、かかりつけ医の判断で、接種予約をしていただいて受けていただくと。

障害を持つ方々については、今後さいたま市としてもそういった方々向けに接種券を発送していく予定です。接種券が届いた段階で、予約する年代ごとの(予約開始)日を待たずして予約ができる状況をつくっていくので、そうした中で対応していただきたいと思います。

○ 埼玉新聞 これは年代関係なくじゃなくて、年代のとおり接種券を送付する。

○ 事務局 発送スケジュールにつきましては、年代ごととなっております。年代ごとの中で、基礎疾患のある方については、予約方法について若干早めるなど予定しております。まだ最終調整中ですので、本日明確な発言は控えさせていただきます。

○ 埼玉新聞 単純にいうと、基礎疾患の方はたくさんいらっしゃるというのと。

○ 市長 基礎疾患をお持ちの方は、医療機関にかかっている方が大半ですので、まずはかかりつけのお医者さんに相談していただいて、打っていいという判断がなされれば、そのお医者さんがワクチンの接種をやっている場合には、そこで予約をして打つことができるということです。

○ 埼玉新聞 基礎疾患の中でも、障害を持たれている方とか、特に難病の方とか、よ

り厳しい方に対しては、市が積極的に働きかけるのかなという質問です。

- 市長 難病の方々も、基本的にはそういう枠組みだろうと思います。
- 事務局 積極的に働きかけるということは、さいたま市の福祉関係の部署や区役所に協力いただきまして、各事業所等にも周知してまいります。
- 埼玉新聞 先日、浦和区役所の集団接種を取材したんですけれども、ご高齢の方が皆さん、雨も降っていたんですけれども、タクシーでいらっしゃっていたんですけれども、シャトルバスとかない浦和区役所とか、大宮区役所もそうですか。そういったところの対応というのは、どう検討されていますか。
- 事務局 区役所の集団接種会場への移動手段としては、もともとコミュニティバスが運行している6か所の区のみとなっておりますので、現在のところ、もともとコミュニティバスがない区域につきましては予定しておりません。
- 時事通信 時事通信です。お願いします。
埼玉新聞さんの関連で、市長発表の中で、居所、住所が分からないの方々へのワクチン接種も支援団体のほうと連携して進めていきたいというお話しされていましたが、もう少し具体的に、どういった連携をされて、どういった支援団体と連携されて、どういった働きかけをされていくのか教えていただきたいです。
- 事務局 まず、福祉部門の専門の部署と協力しまして、まだ準備中ですが、生活困窮者の方々がいらっしゃるようなところの巡回相談などを考えております。
また、ホームレスの方や、住んでいるところがないような方の相談窓口などについても周知を行ってまいります。準備ができ次第発表させていただきますので、今のところは方向性ということでよろしく願いいたします。
- 時事通信 住所が分からない方のお話でいうと、去年の国のほうの特別給付金の10万円の給付のほうと同じ状況かなと思われるんですけれども、そのときはどう対応されて、今回も似たような対応を住所の分からない方に関しては取られるのでしょうか。
- 事務局 特別給付金の対応は存じ上げないんですが、例えば住所が分からない方がさいたま市内の病院に入院しているとか、そういったことがある場合には、居住実態でその自治体が接種券を発行することになっております。

○ テレビ埼玉

それでは、議題と幹事社質問以外で質問がある方はお願いいたします。

その他：さいたまスポーツコミッション会長の辞任及び新しいスポーツ施設設置について

○ 毎日新聞

毎日新聞です。2つお願いします。

まずは、オリンピックじゃないスポーツに関してなんですけれども、さいたま市のスポーツコミッションの会長だった池田純さんが辞められました。横浜市長選に出るとのことなんですけれども、辞められたことをどうお感じになるかということと、あと会長の時代に、サッカー以外のスポーツも振興しようということで、スーパーアリーナほど大きくはないけれども地域の体育館よりも大きい、端的に言ってB1リーグに参入できるぐらいの施設が欲しいという要望があったかと思うのですけれども、現状どういう検討段階なのか教えてください。

○ 市長

さいたまスポーツコミッションの池田会長、代表理事が6月22日のさいたまスポーツコミッションの社員総会で、辞意が伝えられたと報告を受けています。退任については、今後さいたまスポーツコミッションにおける所定の手続きを経て決定されるものと認識しています。

それから、サッカー以外のスポーツの新しいアリーナについてですが、前回の3期目の市長選のときに、次世代型のスポーツ施設の設置を公約に上げています。その取組については、継続して進めているところです。

その他：地下鉄7号線の延伸について

○ 毎日新聞

2つ目ですけれども、(地下鉄7号線)の延伸に関してなんですけれども、これまで市長は採算性が重要だというお話をされていて、この前の市議会で再来年度にあそこのSRに要請するというお話でしたけれども、となると前提となるまちづくりがかなり期待できるということなんだと思いますが、例えば中間駅のあたり、かなりのどかな場所ですけれども、今年度立てる計画で、どういったまちにできそうなイメージがあるのか教えてください。

○ 事務局

まちづくりについては、今年度、区域や土地利用パターンですとか、事業化に向けた調整、計画をつくっていきたいと考えております。「浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン」では、まちづくりの方向性を「自然と共生し、地域資源を活用したまちの創造」と定めております。

それ以外に、レジリエンス、アフターコロナやSDGsの視点を加え、

新たな価値を創造するような視点を持ちながら、まちづくりを検討してまいります。

- 毎日新聞 人が増えるイメージが全く湧かないのですけれども、自然と共生って、今も自然はたくさんあの辺ありますけれども。
- 市長 もう少し言うと、低炭素まちづくりとか、レジリエンス性の確保などを含めたSDGsというものをまちづくりの視点の中に盛り込んでいくということと、職住近接、ウォークアブルなど、アフターコロナの中でワークスタイル、ライフスタイルが変わってくるだろうと。その中で、企業誘致にしても、単に企業が来る、会社、オフィス部門が来るということだけではなくて、住宅と連携するようなまちづくりであったり、岩槻のまさに今自然が残されているあの場所にふさわしいまちづくりの方向性を模索して、地域と大学と、産業連携によるまちづくりを進めていこうという方向性の中で、調査を行っていくということで進めております。
- 毎日新聞 となると、中間駅のあたりが特にそうなのですけれども、何か大きな企業とか工場を誘致したいということでもなく、浦和美園のイオンモールのように大きな商業施設を呼んだりということでもなく、基本的には住宅地になるようなイメージでよいものなのでしょうか。
- 市長 これから人口減少が間近に迫っていることもあるので、住宅だけではちょっと難しさがあると考えております。大学、あるいは大学と連携しながら産業の育成、インキュベーション的な機能も含めた産業の育成であったり、企業を誘致するというか、進出していただいて、ただ単にオフィスだとか研究開発機能がそこに来るだけではなくて、併せて住まいも隣接した場所にあって、新しい働き方ができるようなライフスタイルを提案できるようなまちをつくっていきたいという考え方でして、単なる住宅地ということではなくて、大学、あるいは産業というものをより引き込んだ形のまちづくりということになると思います。
- 毎日新聞 確認ですけれども、それをもって採算性が取れるであろうから、再来年度に要請するというところでよろしいでしょうか。
- 市長 そういう方向性で検討を進めていくということです。
- 東京新聞 今の地下鉄7号線の関係で、今年度のタウンミーティングのお話、今日の資料で出ているのですが、ここは市役所移転はタイトルとしてうたって

いるんですが、地下鉄7号線なんかも主要な話の話題として出てくるんでしょうか。

○ 市長 今回のタウンミーティングでは、市庁舎移転と関連するまちづくりということで、地下鉄7号線までは想定しておりません。

○ 東京新聞 いい機会なので、市民の方、議題に入っていなかったとしても自由意見のところでおっしゃる方とかいるような気もするのですが、仮に市民の意見がここで聞けたとして、もう事業化の要請を2年後とかと決めてしまっているんで、市民の声があった場合に、何か取り入れるようなイメージがちょっと湧かないのですが、どういう形で、ある程度聞いたりは、今回はしないという話なんですけれども、このまま市民の声聞かないままいつちやうのかというあたり、ちょっと伺いたいんですけど。

○ 市長 これまでも市民の皆さんの声を聞き、たくさんの要望をいただきながら進めてきたプロジェクトだと理解しております。また、すでにスケジュールが決まっているという言い方をされていましたが、そういう予定で進めていくということですので、市民の皆さんのご意見を聞く機会もつくってきながら、計画を固めていって、そういったプロセスにつなげていくというつもりで申し上げます。その目安が令和5年であったり、4年以内にできるだけ早く事業認可の手続に入るということでご理解いただきたいと思います。

○ 東京新聞 今おっしゃったような、2年後に要請するのですよというようなことをどこかで説明されたりとかというのは、今のところご予定がないということですか。

○ 市長 現時点では予定しておりませんが、今後いろいろな機会ですらういったお話をしっかりとしていきたいと思えます。

○ 日本経済新聞 日経新聞です。

今の地下鉄7号線の絡みで伺いたいんですけども、これまで市長は明確な今後のスケジュール感について、発言を避けてきたのかなという印象があったんですけども、このタイミングで2年後に事業者に要請したいというふうに決められた背景であったりとか、どんな思いで今回そういうスケジュール感を示されたのかをお伺いできればと思えます。

○ 市長 以前もお話ししましたが、検討段階から実行段階へということで、実行

することを前提に様々な課題をクリアしながら進めてきました。これまでの様々な調査や、関係者との協議なども踏まえながら、おおむねそのタイミング、スケジュール感、あるいは熟度というのが見えてきたと理解しておりまして、今回そういったスケジュール感も含めて目標などを発表させていただきました。

これまでは、そのあたりの調査、あるいは精査が済んでいなかったのも、不確定要素がかなりありましたので明確にはしてきませんでした。そういったものが進んできたタイミングで、今回お話をしたということです。

○日本経済新聞 お話しされるのにあたって、これまで不明確な部分があったということで、そのクリアになった部分、市長が今であれば話したいなというふうに思った、何がクリアになったから話されたんでしょうか。

○市長 やはり事業性のところが最大のネックだったとっております。前回の何年前かの調査で一応単年度黒字が30年以内であるとか、B/Cが1を超えるということはクリアしましたが、課題が明示された中であったわけです。その課題が少しずつ、これからまだ協議をして、十分に関係機関の皆さんのご理解やご協力をいただかなくてはいけないという前提はありますけれども、かなり精査ができつつある中で、目標値として具体的に設定したということです。

そういう意味では、計画の熟度が増してきたという段階とご理解いただいていると思います。また、併せて市民の皆さんからのご要望であるとか、期成会をはじめとする様々な方々の大きな後押しがあったこともあると思います。

○読売新聞 読売新聞です。

地下鉄7号線の関係なんですけれども、先ほど大学と連携をしながら産業を育成すると、インキュベーション的な機能を含めた産業を育成するということなんですけれども、いわゆる学園都市であるとか、そういったイメージになるんでしょうか。

○市長 これから今年度調査をする中でより明確化をしていきたいと思いますが、そういった要素も含めた検討を行っていくことになると思います。

○読売新聞 事業性の部分というところがネックだったというようなお話も以前あったかと思うのですが、そうしたまちなすることで、そういった課題

はクリアされるというふうにお考えなんですか。

- 市長 課題がクリアされることが、前提になると思いますし、それに対応ができるまちづくりを目指していきたいと思っております。

それは、単に(鉄道を)引くためにまちづくりをするわけではありません。間もなく人口減少という局面に入ってくるということを意識している中で、単に住宅地をたくさん増やすということだけではなくて、事業者を増やしたり、あるいは新しい産業を生み出すという機能であるとか、周辺に目白大学をはじめ大学などもありますので、そういったところと連携しながら、まちづくりをしていくという部分と、地下鉄7号線の延伸をセットでやっていこうということです。

- 読売新聞 そういったインキュベーション的な機能を持った企業なり大学なりといったところは、もう現時点である程度選定をしていたりとか、あるいは声かけのようなことはもう始めていらっしゃるのでしょうか。

- 市長 まだ調査・検討している段階ですので、既存の地域にある企業や大学も含めていろいろ調整しながら、まちづくり計画もつくっていくことになると思います。

その他：大宮区で発生したインターネットカフェ立てこもり事件について

- 埼玉新聞 大宮で、ネットカフェの立てこもり事件ありましたけれども、なかなか自治体として難しいのかもしれませんが、何か対策とか検討されていることはあるのでしょうか。

あと、被害女性がいらっしゃいますけれども、市として何か支援をする予定とかありますでしょうか。

- 市長 今回の事件について全て把握しているわけではありませんが、再びこうした事件が起こらないように行政として、また基礎自治体である市として、市の権限の中でどういったことができるかについて、十分検討していきたいと考えております。

被害女性の方については、本市としてできることがあれば対応していきたいと思っております。

- テレビ埼玉 ほかにありますか。

ありがとうございました。以上で質問を終わらせていただきます。

- 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。
- 次回の開催は7月8日、13時30分からを予定しております。本日は
どうもありがとうございました。

午後 2時35分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。